

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23年 12月 1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473300659		
法人名	医療法人 社団 明和会		
事業所名	ラ・メール大野		
所在地	広島県廿日市市丸石二丁目3-35 (電話) 0829-50-4315		
自己評価作成日	平成23年11月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3473300659&SCD=320
------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成23年11月22日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ラ・メール大野は、海や山の近くに位置し季節感を感じながら生活できる環境になっている。病院併設の施設で医療面の支援体制については、入居者及びそのご家族に安心を提供している。また、地域密着型の施設として毎月地域のふれあいサロン等に出向き、地域との交流を深め入居者の方が地域で継続した生活が送れるように取り組んでいる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>医療法人併設の事業所で、医療面の連携及び支援体制が築かれており、特に夜間は入居者及び家族に安心と厚い信頼を得ている。法人は口腔ケアに特に力を入れており、併設病院の歯科衛生士に定期的に口腔内をチェックしてもらい、アドバイスを受けて毎食後、入居者個々に応じた口腔ケア（義歯の洗浄等）を行っている。地域交流は、近隣の保育園と連携し、保育園の年間スケジュールに合わせ、利用者との交流を定期的に組んでいる。保育園児の訪問日は、最高の笑顔と豊かな情緒に包まれている。入居者は全員で感謝の気持ちを込め、牛乳パックで椅子を作り贈っている。食事は、事業所独自のこだわりがあり、今の時期は新米、月1回は国産牛の焼肉、旬魚の刺身をメニューに取り入れる等、入居者にとって食事が楽しみとなるよう取り組まれている。全職員は年間研修計画に基づき内外研修を受け、自己研鑽に努め理念に沿ったケアサービスを実践している。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	グループホーム理念と法人の理念の共有を図っている。その理念に近づくために目標を持って取り組んでいる。	事業所の理念と年間目標（法人全体での部署目標）を所要所に掲示し、全員で確認し浸透を図っている。さらに全職員は理念に基づく個人目標を設定し、6カ月毎に個人面接を行ない、フィードバックしており、スタッフ全体で理念の実践に向けた取り組みがなされている。また、年度末には、法人全体で成果の評価と、次年度の計画を発表し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地区の一斉清掃や行事に参加し、毎月行われているふれあいミニサロンにも参加している。また、近隣の保育園との交流も行っている。	毎月1回、ホームを開放し、ミニ喫茶を開いている。近隣の保育園との定期的な交流、2カ月毎に開催される、近隣公民館への入居者の作品展示など、地域の一員として日常的に交流している。さらに毎年、法人が開催する大野浦フェスティバルに参加し、積極的に町内女性会や地域住民との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ボランティアや近隣中学校の職場体験実習、認知症介護実践研修の実習を受け入れ、ホームの機能を還元している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月毎の運営推進会議で、ホームの活動報告などについての話し合いを行っている。（偶数月第四月曜日に開催）	運営推進会議は家族代表、地域住民代表、行政職員等の出席を得て、事業所の運営、サービスの取組み、地域との交流、評価等の報告討議し、提案や助言を得てサービスの向上に活かしている。年2回の家族会行事（納涼祭・クリスマス会）に合わせ、家族全員出席の運営推進会議を開催している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に市の担当者の方に参加をお願いし、サービス状況などの報告を行っている。また、毎月、介護相談員（廿日市市職員）の受け入れも行っている。	運営推進会議には毎回出席頂き、事業所の実情、サービスの取組みの意見交換を行い助言を頂いている。毎月1回、廿日市が派遣する介護相談員の受け入れもしており、介護相談員にも運営推進会議に出席して頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束について理解し、身体拘束のないケアを行っている。玄関はタッチ式でドアホーンが鳴るようにしている。スタッフの出入りは名前を云って行うようにしており、外出の察知ができるようにしている。</p>	<p>職員は、身体拘束について熟知しており、安全を確認しながら自由な暮らしの支援に取り組んでいる、常に一人ひとりに気配りし、行動からトイレ・外出等の予知、予測をし、状況に応じ一緒に散歩に出かける等適切に対応している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修に参加し、高齢者虐待についての理解を深めるようにしている。また、虐待事例をスタッフ間で共有し、虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>地域権利擁護事業や成年後見制度について理解している。必要に応じてご家族などに制度の説明などを行っていききたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>文書と口頭で十分な説明を行っている。その後においても質問等があれば、十分な説明を行うようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>年2回納涼祭とクリスマス会において家族会を開き、意見や要望などをいただくように働きかけている。また、意見や苦情等の相談を受ける体制を整えている。今後は、ご家族側が主体となって家族会を運営していただく予定になっている。</p>	<p>家族会を年2回、納涼祭・クリスマス会を運営推進会議を兼ねて開催し、多数の家族が参加し、意見交換を行っている。個別的には連絡ノート工夫し、情報交換している。家族の意見要望に対しては即応体制の取り組みを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	両ユニット合同のミーティングを行い、意見交換を行っている。また、問題等が生じた場合には、必要に応じて話し合いをするようにしている。（毎月第三水曜日に開催）	月1回の合同ミーティングは、職員から前もって議題を出して貰い、意見交換を行っている。その中で職員から「個別ミーティングをして欲しい」との意見を反映し、現在小ミーティングを行っている。会議では必ず事業所の年間目標、部署目標の進捗状況を点検検討し、目標達成へのモチベーションを高めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課により、職員一人ひとりを評価するシステムを導入している。また、管理者と職員間で個別に話し合う機会を設け、問題解決にも取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修の参加については、スタッフの希望する研修を受講できるように配慮している。費用なども法人教育委員でサポートできる体制がある。また、毎月法人内で研修が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市社協主催の認知症キャラバンメイト連絡協議会に参加し、関係機関と意見・情報交換を行っている。今後は他の事業所への見学や情報交換も積極的に行っていきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面接や見学時に話を聞かせていただき、安心した生活が送れるように対応している。また、必要な情報は記録し、職員間で共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面接や面会時にコミュニケーションをとりながら要望などを汲み取り、きちんとしたアセスメントを行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	介護保険制度のサービスについては、必要に応じ説明を行っている。医療については併設病院との連携により、専門医に相談・紹介するなどの体制がある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	季節に応じた作品作りを入居者の方と一緒にいき、共感したり、支えあう関係を築くようにしている。また、入居者の方同士も支えあえるようにフォローしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時にご家族の思いを聞き、ご本人の様子や意向などをお伝えすることで信頼関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所時になじみの物品を持ち込んでいたり、ご家族の写真などを持って来ていただくなどの工夫をしている。また、ご家族や知人の面会時などに情報収集を行っている。	家族や馴染みの人の来訪時は、全職員で歓迎し、訪問しやすい雰囲気づくりに努めている。本人や家族の希望されたかかりつけ医への受診、馴染みの場所、墓参りなどは家族対応での外出支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	トラブルのない関係が構築できるように、入居者同士の席順など職員が介入し、気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後でも、ご家族の方がグループホームを訪問されたりしている。必要に応じてご家族の方からの相談に応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の方一人ひとりの状況や意向の把握に努め、できることを主体として介護計画に取り入れ実践している。	毎日2回のお茶の時間や日常の会話の中から本人の意向を把握し、実現できるように取り組んでいる。2か月毎に開催の、近隣公民館の作品展に出品する立体的貼り絵や習字等は、本人・入居者の意向を実現した事例で、現在も継続している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族より今までのライフスタイル、生活歴等について情報をいただき、入居者の方一人ひとりの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者の方の有する力等を把握し、記録に残している。また、バイタルや体重チェックも行い、健康管理に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>各ユニットで3カ月毎にカンファレンスを行い、ケアプランの作成をしている。その際、ご本人にもカンファレンスに参加して頂き、希望や意向を確認し、ケアプランに盛り込んでいる。家族の方もカンファレンスに参加していただけるように協力をお願いしている。</p>	<p>3カ月に一度、介護計画の見直しを行なっている。見直しに当たっては、ケアカンファレンスを開き本人・家族の意向・希望を十分に踏まえ、全員の意見を基にケアマネジャーが最終的に介護計画を作成している。ケアカンファレンスは家族の訪問時に合わせ、本人の参加も得て開いており、家族も意識を持って希望や意向を準備してこられる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>入居者の方一人ひとりの行動記録があり、状態やケア内容、気づき等を記入している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ご家族の方からの宿泊希望があった場合、寝具の貸し出しや食事などの提供も可能となっている。また、法人内の福祉用具販売部門を通して、オムツや福祉用具の購入も可能となっている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>入居者の方が買物をする事ができるようにスーパーの送迎サービスを利用し、買物に出かけている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご本人やご家族の意向に沿った医療機関での受診・往診ができるように配慮している。また、必要な情報は提供し、協力体制を築いている。</p>	<p>毎月1回、定期的に主治医が往診し健康管理を行っている。緊急時は、夜間も含め併設病院との協力体制が構築されている。本人、家族から協力医療機関以外のかかりつけ医の希望があれば、情報を提供し受診の支援を行っている。毎年入居者一人ひとりの誕生日に健康診断を実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設病院（大野浦病院）の看護職と連携して支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の方が入院した場合、入院先の相談員と連携を図り、状況の把握や今後の方向性などについて話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時ご家族に対して、急変時や重度化した場合と終末期のあり方（延命治療等）についての意向を確認し、方針を決めている。	入所時に、家族の意向の確認を行い、グループホームの本来の役割と事業所での対応できることについて十分に説明を行い、方針を決め書類で同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急対応マニュアルを作成しており、スタッフ一人ひとりが内容を把握している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎月避難訓練を行い、入居者の方に意識していただくようにしている。また、火災・災害時マニュアルを作成し、スタッフに徹底を図っている。近隣との協力体制については、地区の援助を受けられるように運営推進会議で話し合っている。	毎月1回、入居者と一緒にミニ避難訓練を実施し、意識付けを行っている。併設の関連施設と災害時の協力体制を築いている。地域住民との協力体制作りは、運営推進会議で検討している。	年2回の消防署立会訓練時に地域住民の協力をお願いし、夜間も想定した訓練の早期実現を望みます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者の方一人ひとりの性格を理解し、その方のペースに合わせた対応に心掛けている。	入居者の尊厳を大切に、自尊心を傷付けないよう配慮し、しっかり目線を合わせての会話や、特に入浴介助・排泄介助時など入居者の立場に立ったケアに取り組んでいる。又、個人情報の保護も徹底させている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定ができるような言葉かけを行っている。また、残された力を使って生活していただくよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の方の意思や体調に配慮し、個々のペースに合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替えや化粧などはご本人に任せて行うなど、本人の意思を大切にケアを行っている。毛染めの希望にも対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の方一人ひとりの力を活かし、盛り付けやお盆拭き、お盆並べなどを一緒に行っている。入居者の方の誕生日にはその方が希望したメニューを提供している。	職員が見守りながら入居者と一緒に皮むき、盛り付け、片付け、食器洗い等を行っている。事業所はお米・毎月1回の和牛焼肉・旬魚の刺身など、食材にこだわっており、少しでも美味しい料理の提供に心掛けている。又、行事食・クッキー・かしわ餅・らっきょう、梅干し作り等も入居者と一緒に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量や水分摂取量の記録を行い、摂取状況の把握に努めている。摂取カロリーが不足している場合には、ご家族の方と相談し、栄養補助食品などの摂取をすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、入居者個々に応じた口腔ケア（義歯の洗浄等）を行っている。併設病院の歯科衛生士に定期的に口腔内をチェックしてもらい、アドバイスを受けながらケアにつなげている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	スタッフは記録により、一人ひとりの排泄パターンを把握している。声かけの際に声の大きさなどさりげなく対応するようにしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握した時間に、さりげなく声かけしトイレでの快適な排泄の介助に努めている。夜間もトイレでの排泄に重点を置き、夜間の排泄時間に合わせたトイレ誘導や入居者の状況に応じ、ポータブルトイレを使用し排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	入居者の方一人ひとりの状態を把握し、乳製品（牛乳等）の摂取をすすめたり、水分補給の徹底を図っている。その他対策として、おやつ前の体操や散歩などによる適度な運動を取り入れたりもしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的には2日に1回の入浴としている。入居者の方一人ひとりの希望に沿ったケアを行っている。	浴室・浴槽は、入居者の安全な入浴、力の発揮の場とし、多種状況を想定した手摺を取付けるなど、環境整備を行なっている。基本日以外の入浴希望にも、入浴が楽しめるものとなるように柔軟に対応している。入浴を嫌がられる方には、繰り返し声掛けを行い、タイミングに合わせた入浴介助を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者の方一人ひとりの状況に応じて、運動量を増やすなど安眠を促すような支援を行っている。 また、体調に合わせて、適度な休息がとれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者の方一人ひとりの服薬内容を把握し、医師の指示通りに服用ができるようにしている。また、誤薬予防のため、投薬前のチェックを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者の方の好きなこと、得意なことに取り組んでもらうようにしている。生活の中においても盛り付けや洗濯物たたみなどの役割を持ってもらい、入居者一人ひとりの個性や特徴が活かせるような支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	入居者の方の希望を聞き、一緒に散歩や外出の企画に取り組んでいる。4月には、ご家族の方と一緒に植物公園へお花見に出かけている。	季節により差はあるが好天の日は近隣の散歩に出かけている。行事担当者の計画した初詣・お花見・あじさいツアー・紅葉狩り・買物外出・外食外出・外出おやつレク、交通量の殆どない玄関周りの花壇で囲んだスペースに、パラソル付テーブルを置き、ユニット単位でおやつ時間を楽しく過ごす等の取り組みを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者の方の能力に応じた支援を行っている。ホームで預かる場合には、家族に預り書を発行し管理している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	プライバシーに配慮し、手紙や電話が利用できるようにしている。携帯電話を利用する入居者の方もいる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者の方が居心地よく過ごせるように、声の大きさ、TVの音量、照明の明るさに気を配っている。ホーム内には、写真や作品を飾り生活感を出している。また、季節を感じさせる生花を置き、雰囲気づくりにも取り組んでいる。	ホーム内は廊下など障害物もなく掃除も行き届き清潔で機能性に富んだ環境に整備されている。食堂兼居間は、適温湿度に管理し快適な空間とされている。壁には公民館に出展した貼り絵、習字作品や手作りカレンダー、行事写真等を貼り、生き生きとした生活感を出している。園芸担当職員はホームの随所に季節の花を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングに畳のスペースやソファを設置して自由に過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所の際は、使い慣れた私物を持ち込んでいただくように働きかけ、本人が居心地よく過ごせるようにしている。	エアコン・介護用ベット・タンス以外は全て持ち込みとなっている、自宅環境にできるだけ近づけるよう、使い慣れた寝具やテレビ、小物等を持参され、本人の思い通りに配置し、本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	低めの流し台を使っており、要所へ手すりも設置している。また、部屋の入口には、ご本人の思い出の品物を置き、部屋を間違えないように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	グループホーム理念と法人の理念の共有を図っている。その理念に近づくために目標を持って取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地区の一斉清掃や行事に参加し、毎月行われているふれあいミニサロンにも参加している。また、近隣の保育園との交流も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ボランティアや近隣中学校の職場体験実習、認知症介護実践研修の実習を受け入れ、ホームの機能を還元している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月毎の運営推進会議で、ホームの活動報告などについての話し合いを行っている。（偶数月第四月曜日に開催）		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に市の担当者の方に参加をお願いし、サービス状況などの報告を行っている。また、毎月、介護相談員（廿日市市職員）の受け入れも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束について理解し、身体拘束のないケアを行っている。玄関はタッチ式ドアホーンが鳴るようにしている。スタッフの出入りは名前を云って行うようにしており、外出の察知ができるようにしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修に参加し、高齢者虐待についての理解を深めるようにしている。また、虐待事例をスタッフ間で共有し、虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>地域権利擁護事業や成年後見制度について理解している。必要に応じてご家族などに制度の説明などを行っていきたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>文書と口頭で十分な説明を行っている。その後においても質問等があれば、十分な説明を行うようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>年2回納涼祭とクリスマス会において家族会を開き、意見や要望などをいただくように働きかけている。また、意見や苦情等の相談を受ける体制を整えている。今後は、ご家族側が主体となって家族会を運営していただく予定になっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	両ユニット合同のミーティングを行い、意見交換を行っている。また、問題等が生じた場合には、必要に応じて話し合いをするようにしている。（毎月第三水曜日に開催）		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課により、職員一人ひとりを評価するシステムを導入している。また、管理者と職員間で個別に話し合う機会を設け、問題解決にも取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修の参加については、スタッフの希望する研修を受講できるように配慮している。費用なども法人教育委員でサポートできる体制がある。また、毎月法人内で研修が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市社協主催の認知症キャラバンメイト連絡協議会に参加し、関係機関と意見・情報交換を行っている。今後は他の事業所への見学や情報交換も積極的に行っていきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面接や見学時に話を聞かせていただき、安心した生活が送れるように対応している。また、必要な情報は記録し、職員間で共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面接や面会時にコミュニケーションをとりながら要望などを汲み取り、きちんとしたアセスメントを行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	介護保険制度のサービスについては必要に応じ説明を行っている。医療については併設病院との連携により専門医に相談・紹介するなどの体制がある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	毎月のカレンダー作りを入居の方と一緒にいき、共感したり、支えあう関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時にご家族の思いを聞き、ご本人の様子や意向などをお伝えすることで信頼関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所時になじみの物品を持ち込んでいただいたり、ご家族の写真などを持って来ていただくなどの工夫をしている。また、ご家族や知人の面会時などに情報収集を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	トラブルのない関係が構築できるように、入居者同士の席順などに気を配っている。気の合わない入居者の方同士が一緒になった場合は職員が介入し、お互いにストレスがかからないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後でも、ご家族の方がグループホームを訪問されたりしている。必要に応じてご家族の方からの相談に応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の方一人ひとりの状況や意向の把握に努め、できることを主体として介護計画に取り入れ実践している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族より今までのライフスタイル、生活暦等について情報をいただき、入居者の方一人ひとりの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者の方の有する力等を把握し、記録に残している。また、バイタルや体重チェックも行い健康管理に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	各ユニットで3カ月毎にカンファレンスを行い、ケアプランの作成をしている。その際、ご家族の希望や意向を確認してケアプランに盛り込んでいる。今後、ご本人、ご家族の方にもカンファレンスに参加していただけるようにしていきたい。		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	入居者の方一人ひとりの行動記録があり、状態やケア内容、気づき等を記入している。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	ご家族の方からの宿泊希望があった場合、寝具の貸し出しや食事などの提供も可能となっている。また、法人内の福祉用具販売部門を通して、オムツや福祉用具の購入も可能となっている。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	入居者の方が買物をするができるようにスーパーの送迎サービスを利用し、買物に出かけている。ご家族の方も一緒に参加していただけるようにしている。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	ご本人やご家族の意向に沿った医療機関での受診・往診ができるように配慮している。また、必要な情報は提供し、協力体制を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設病院（大野浦病院）の看護職と連携して支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の方が入院した場合、入院先の相談員と連携を図り、状況の把握や今後の方向性などについて話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時ご家族に対して、急変時や重度化した場合と終末期のあり方（延命治療等）についての意向を確認し方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急対応マニュアルを作成しており、スタッフ一人ひとりが内容を把握している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎月避難訓練を行い、入居者の方に意識していただくようにしている。また、火災・災害時マニュアルを作成し、スタッフに徹底を図っている。近隣との協力体制については、地区の援助を受けられるように運営推進会議で話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者の方一人ひとりの性格を理解し、その方のペースに合わせた対応に心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定ができるような言葉かけを行っている。また、残された力を使って生活していただくよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の方の意思や体調に配慮し、個々のペースに合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替えや化粧などはご本人に任せて行うなど、本人の意思を大切にケアを行っている。毛染めの希望にも対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の方一人ひとりの力を活かし、盛り付けや配膳、お盆拭きなどを一緒に行っている。入居者の方の誕生日にはその方が希望したメニューを提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	食事摂取量や水分摂取量の記録を行い、摂取状況の把握に努めている。摂取カロリーが不足している場合には、ご家族の方と相談し栄養補助食品などの摂取をすすめている。		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	毎食後、入居者個々に応じた口腔ケア（義歯の洗浄等）を行っている。併設病院の歯科衛生士に定期的に口腔内をチェックしてもらい、アドバイスを受けながらケアにつなげている。		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	スタッフは記録により、一人ひとりの排泄パターンを把握している。声かけの際に声の大きさなどさりげなく対応するようにしている。		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	入居者の方一人ひとりの状態を把握し、乳製品（牛乳等）の摂取をすすめたり、水分補給の徹底を図っている。その他対策として、おやつ前の体操や散歩などによる適度な運動を取り入れたりもしている。		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	基本的には2日1回の入浴。入居者の方一人ひとりの希望に沿ったケアを行っている。入浴を拒む入居者の方には、無理をせずタイミングを見計らって声をかけるなど工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>入居者の方一人ひとりの状況に応じて、運動量を増やすなど安眠を促すような支援を行っている。 また、体調に合わせ、適度な休息がとれるようにしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>入居者の方一人ひとりの服薬内容を把握し、医師の指示通りに服用ができるようにしている。また、誤薬予防のため、投薬前のチェックを徹底している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>入居者の方の好きなこと、得意なことに取り組んでもらうようにしている。生活の中においても食器洗い、洗濯物たたみなどの役割を持ってもらい、入居者一人ひとりの個性や特徴が活かせるような支援をしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>入居者の方の希望を聞き、一緒に散歩や外出の企画に取り組んでいる。4月には、ご家族の方と一緒に植物公園へお花見に出かけている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>入居者の方の能力に応じた支援を行っている。ホームで預かる場合には、家族に預り書を発行し管理している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	プライバシーに配慮し、手紙や電話が利用できるようにしている。携帯電話を利用する入居者の方もいる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者の方が居心地よく過ごせるように、声の大きさ、TVの音量、照明の明るさに気を配っている。ホーム内には、作品を飾り生活感を出している。また、季節を感じさせる生花を置き、雰囲気づくりにも取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングに畳のスペースやソファを設置して自由に過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所の際は、使い慣れた私物を持ち込んでいただくように働きかけ、本人が居心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	低めの流し台を使っており、要所へ手すりも設置している。 また、部屋の入口には、ご本人の思い出の品物を置き、部屋を間違えないように工夫している。		

V アウトカム項目(1ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V アウトカム項目(2ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ラ・メール大野

作成日 平成 24年 1月 18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間を想定した避難訓練ができていない。	夜間の避難に重点を置いた訓練の実施。	夜勤帯など職員数が少ない時の避難、対処方法の周知を図っていく。	1年
2	35	外部（地域）を巻き込んだ避難訓練の実施ができていない。	地域やご家族と連携した避難訓練を実施する。	運営推進会議や家族会の開催と合わせて避難訓練を行い、協力体制の強化に努める。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。